

“是不是”を用いた「確認性疑問形式」

宇 都 健 夫

1. はじめに
 1. 1 確認性疑問形式
 1. 2 問題提起
2. 文成分型の構文的意味と統語的特徴
 2. 1 文成分型の構文的意味
 2. 2 モダリティの観点から見た文成分型の“是不是”
3. 追加型の構文的意味と統語的特徴
 3. 1 追加型の構文的意味
 3. 2 追加型の構文的意味の反映
4. 文成分型と追加型の比較考察
 4. 1 詰問調と婉曲な提案・依頼
 4. 2 追加型でのみ成立する形式
 4. 3 “呢”の付加と蓋然性を表す副詞の生起
5. おわりに

1. はじめに

1. 1 確認性疑問形式

現代中国語の疑問文に、一般に「反復疑問文」と呼ばれるものがある。“他今天来不来？”“她漂亮不漂亮？”というように、述語となる動詞、形容詞、助動詞等の肯定形と否定形を連用して、肯定または否定いずれかの返答を要求するものである。そのうち特に“是”を用いたものに、一般の反復疑問文とは異なる様相を呈するものがある。まず以下の諸例を参照されたい。

- (1) 洗局长 (坐下) 说实话, 你是不是侦探?

(2)

徐芳蜜 是怎样，不是又怎样？ 老舍《残雾》

(2) 水仙急道：“你是怎么了？你今天是不是有毛病？” 于东楼《短刀行》

(3) 是不是你今天有毛病？

(4) 你是不是今天有毛病？

(5) 你今天是不是有毛病？

(6) 你今天有毛病，是不是？

(7) 你今天有毛病。是不是？

例(1)の疑問形式は、“你是偵探。”という陳述形式における繫辭“是”とその否定形“不是”を並立させて形成されたもので、一般の反復疑問文と意味的に同質のものである。それに対して例(2)は、“你今天有毛病。”という陳述形式に“是不是”という成分を加えることで疑問形式が形成されている。本論では、このように陳述形式に“是不是”を加えて形成された疑問形式を「確認性疑問形式」と呼ぶことにする。¹⁾ そのうえで、それを“是不是”の位置によって二タイプに分類し、例(3)から例(5)のように“是不是”が文頭または文中に位置するタイプを「文成分型」、例(6)のように“是不是”が文の後方に位置するタイプを「追加型」と呼ぶ。例(7)は、形式的に一旦文が完結しており、“是不是”は新たな文として認識されるが、実際には“是不是”とその前方の陳述形式とは意味内容的に連動しており、例(6)と実質的に同等のものである。そこで本論では、そのようなものも追加型・確認性疑問形式として扱うこととする。²⁾

1. 2 問題提起

従来の先行研究では、確認性疑問形式について断片的な紹介や考察を試みているものは少なくないものの、その統語的特徴や構文的意味を包括的に議論したものはほとんど見あたらない。近年に至って、陶炼 1998、丁力 1999、邵敬敏・朱彦 2002 のように専ら確認性疑問形式を議論する研究も現れたが、なお全面的な解明には至っていない。³⁾ そもそも先行研究には、文成分型と追加型とを単なる“是不是”の位置の違いと捉え、実質的に同一視している

ものが少なくない。つまり両型を同一の構文と見なしているわけである。ところが実際には、以下のように、そのようには考えられない言語事実が存在する。

第一に、邵敬敏 1990 が指摘するように、文成分型は“是不是”を副詞“是否”に置換しても例 (8) から例 (9) のように文が統語的に成立するが、追加型の“是不是”では例 (10) から例 (11) のように文が成立しなくなる。

(8) 那我是不是先得跟领导打个招呼？ 张辛欣、桑晔《北京人》

(9) 那我是否先得跟领导打个招呼？

(10) 这整容，也是艺术，是不是？ 张辛欣、桑晔《北京人》

(11) *这整容，也是艺术，是否？

第二に、望月八十吉 1994 が指摘するように、文成分型は例 (12)、例 (14) のようにいわゆる間接疑問文の補文となる場合があるが、追加型では例 (13)、例 (15) のように、いかなる場合にもそれが容認されない。⁴⁾

(12) 有时候也要想，是不是我太笨了。 张辛欣、桑晔《北京人》

(13) *有时候也要想，我太笨了是不是。

(14) 程善恒 可是，图书公司的这点事，教我怀疑，是不是换汤不换药！
老舍《一家代表》

(15) *可是，图书公司的这点事，教我怀疑，换汤不换药，是不是！

これらの言語事実、文成分型の“是不是”と追加型の“是不是”とが意味上および統語上異なるレベルに属することを示唆するに充分である。

更に興味深いのは、次に見られるような文成分型と追加型との差異である。

(16) 黄子清 我黄子清不能慢待了客人，是不是，县长？

老舍《国家至上》

(17) ？我黄子清是不是不能慢待了客人？

例 (16) は、“我黄子清不能慢待了客人。”という陳述形式に“是不是”を後続させて、追加型・確認性疑問形式を形成したものである。例 (17) は例 (16) の追加型を文成分型に置き換えたもので、機械的に“是不是”を移動させただけと考えれば成立に問題はなさそうであるが、実際には容認されに

(4)

くいものとなっている。この事実は、やはり文成分型と追加型の差異は単純に“是不是”の位置の差異に帰するものとは考えられないということを示すものである。ここでは恐らく、“我黄子清不能慢待了客人。”という陳述形式の意味内容——それは話し手自身の素性や思考のあり方に関する命題内容を言語化したものである——が両型の容認度の差異を分けているのであろう。それは突き詰めれば、文成分型と追加型それぞれの構文としての意味、即ち構文の意味に起因する問題である。

以上のように見てみると、文成分型と追加型とでは、そもそも構文の意味が異なるのではないかと考えられる。それならば、それぞれの構文の意味は、一体どのように規定されるのだろうか。また、上掲のようにその構文の意味の相違に起因すると思われる言語事実は、具体的にはどのように説明されるのだろうか。

本論は、文成分型と追加型の二タイプの確認性疑問形式に関して、両型を明確に区別したうえで、実例をもとにそれぞれの構文の意味を規定し、それを反映する言語事実を考察してゆく。先行研究については、議論の過程で必要に応じて個別に採り上げ、検証することとする。

2 文成分型の構文の意味と統語的特徴

2. 1 文成分型の構文の意味

まず文成分型・確認性疑問形式の構文の意味について考えてみたい。幾つかの先行研究には、文成分型は一般の反復疑問文とは異なる性質のものであるという記述が見られる。例えば刘月华等 2001 は、“是不是”を用いた疑問文の作用を一般の反復疑問文とは異なるものとして、次のように紹介する。⁵⁾

(18) (用“是不是”的正反问句：) “如果提问的人对某一事实或情况已有比较肯定的估计，为了进一步得到证实，就可以用这种疑问句提问。”

刘月华等 2001 はこの記述内容に対して具体的な根拠を示していないが、その端的なものとしては次の例 (19)、例 (20) のように、文成分型の発問に

対して自ら肯定の反応を表している事例の存在が挙げられよう。

(19) 佟秘书 是不是流出来，各处打“游击战”呢？大概是，我看！

老舍《面子问题》

(20) 如霜心中道：“我这是怎么了？”她忽然道：“我是不是很丑？”

范书道：“不丑。”

如霜盯着他：“你为什么要骗我？我已是满脸伤疤，又怎会不丑？”

你怎么会喜欢一个满脸伤疤的女人？” 龙人《正邪天下》

そこで上掲(18)の記述内容を改めて解釈すると、文成分型は、話し手がある命題内容に対して肯定の判断への傾きを持って発問する形式である、とすることができる。⁶⁾ 言い換えれば、文成分型は「ある命題内容に対して、それが真であることを確認する」ための形式であるということである。本論は、これこそが文成分型の構文的意味であると考ええる。ここで「確認」と言うのは、話し手の肯定の判断への傾きを前提としていることを踏まえたものである。この一連の作用は、文成分型の構文的意味と捉えられるものであり、一般の反復疑問文との明確な相違を示すものであると言える。

文成分型において話し手が肯定の判断への傾きを有しているということはまた、次のような言語事実にも反映されている。即ち、陶炼 1998、興水優 2000 が指摘するように、一般の反復疑問文において生起できる“到底”、“究竟”といった副詞が、文成分型では生起しにくいのである。例(21)と例(22)、例(23)と例(24)の対比を参照されたい。

(21) 尤汉荣，你到底愿意不愿意住到武昌我们学校？

池莉《你以为你是谁》

(22) *你到底是不是住到武昌我们学校？

(23) “你究竟要不要上来？干什麼慢吞吞的？”

陈美琳《用眼睛写上爱情》

(24) *你究竟是不是上来？

“到底”、“究竟”等の副詞は反復疑問文において、肯定と否定の対立項のいずれか一つの選択を問い詰める働きを持つ。その際、二つの項の選択率は

わば同確率である。一方、文成分型は通常、聞き手が肯定の返答をする確率が高いと予測して発問する形式である。そこでそれらの副詞が生起すると、論理的に不適合になるのだと考えられる。⁷⁾

2. 2 モダリティの観点から見た文成分型の“是不是”

前節で規定した構文的意味を踏まえ、文成分型の“是不是”をモダリティの観点から捉え直してみたい。⁸⁾ 于康 2000 は、中国語のモダリティ成分を「命題目当てのモダリティ」と「聞き手目当てのモダリティ」とに大別したうえで、モダリティ成分の一例として確認性疑問形式に触れている。于氏の主張によれば、例(25)のような疑問形式における“是不是”は「聞き手に働きかけ、確認を求める」機能を持つ聞き手目当てのモダリティ成分であり、例(26)のような疑問形式における“是不是”は心理文に用いられていることから、「聞き手にも自分にも解答を求めようとしないう話し手の心中の疑いのみを表す」命題目当てのモダリティ成分である、という。⁹⁾

(25) 杨柳青 墨先生，让我问你一句，你是不是愿意大家不打仗，愿意国家亡了呢？

墨子庄 不用考问我，我永远不回答这样的问题。 老舍《张自忠》

(26) 姓韩的找不到还不吃紧，最叫她担心的是杨晓冬。是不是敌人把他抓去了？整天心烦意乱，拿东忘西，上班给病人服药时，接连打碎两个量杯。 李英儒《野火春风斗古城》

文成分型の“是不是”は確かに于氏の言う通り、語用論上は例(25)のように聞き手目当てと認められる場合もあれば、例(26)のように聞き手を意識しない場合もある。だがいづれにせよ、より重要なのは、文成分型の“是不是”は聞き手目当てか否かに関わらず、ある命題内容に対して肯定の判断への傾きを持って発問することを示す標識である、ということである。即ち、文成分型の“是不是”は構文論上、常に命題目当てのモダリティ成分であると思えることができるのである。このことは、後述の追加型との比較において重要な意義をもつ。

3 追加型の構文的意味と統語的特徴

3. 1 追加型の構文的意味

前章では、文成分型の構文的意味が「ある命題内容に対して、それが真であることを確認する」ことと規定されることを述べた。それでは、追加型の構文的意味はどのように規定されるのだろうか。

この点について鋭い指摘をしている先行研究に、大滝幸子 1992 と岩本真理 1993 の二つが挙げられる。大滝幸子 1992 は、“妈妈好了，你就后悔了，是不是？”という文を採り上げた上で、『『是不是？』という問いかけは聞き手に対して論理叙述の正確さを尋ねているのであって、『後悔するしない』を尋ねているのではない』と述べている。岩本真理 1993 は、吕叔湘 1979 の“你搞错了，是不是？”という文を例に挙げて、「文中の‘是不是’は文の内容そのもの（命題）の真偽を問うものであるというよりは、話し手のコメントのあり方について、聞き手に問い返すものととらえられるのではないか」と述べたうえで、上掲大滝幸子 1992 の説を紹介している。

以上の先行研究の指摘について、次の例を採り上げて、再度具体的に検証してみたい。

(27) 潘月亭 （低声）我知道你想我，（自作多情）是不是？你想我。你说，你想我，是不是？（哈哈大笑）

陈白露 嗯！我想你—— 曹禺《日出》

この例において、最初の“是不是”という発語は、“我知道你想我”という事実を確認するためのものでもなければ、“你想我”という命題の真偽を問題にしたものでもない。直後に“你想我。”と断言していることから伺われるように、話し手は“你想我”という命題が真であることを確信しているのである。“是不是”という発語は、その話し手の判断が妥当であることを聞き手に確認するためのものに他ならない。二番目の追加型も同様で、まず“你想我”という命題を真であると判断した上で提示し、その判断が妥当であることを“是不是”によって追加的に確認しているわけである。¹⁰⁾

以上の検証から、追加型において話し手は、提示した命題内容の真偽を訊ねているのではなく、その命題内容について話し手自身が真であると判断し、そしてその話し手の判断そのものが妥当であることを聞き手に追加的に確認している、ということができる。これこそが追加型の構文的意味であると言ってよい。文成分型においては確認の対象が「命題内容の真偽」であったのに対して、追加型では「話し手の判断」の妥当性そのものが確認の対象となっているのである。

ちなみに、追加型の“是不是”は通常“对不对”に置き換えることができる。この場合の“对不对”が意味するのは“我这样说对不对?”ということであり、まさに話し手の判断の妥当性を問題とした表現である。したがってこのことも、追加型の構文的意味を裏付ける言語事実と言えよう。

3. 2 追加型の構文的意味の反映

上掲の大滝幸子 1992、岩本真理 1993 は、ともに追加型の構文的意味を的確に捉えたものであった。しかし両者とも、追加型と文成分型とを明確に区別してはおらず、また確認性疑問形式に関する体系的な分析を行ってもない。それ以外の先行研究を概観しても、追加型の構文的意味について関連する言語事実による裏付けを行っているものは、管見の限り見当たらない。そこで本論では、それを反映する実例を挙げ、順に検証していきたい。

前節で既に述べたように、追加型の“是不是”は命題自体の真偽を問題にしたものではない。また前節で規定した構文的意味から考えても、命題に対する判断を明言した直後に自らそれが妥当であることを確認するのは不合理である。したがって、追加型の“是不是”は常に聞き手目当てのモダリティ成分と見なすのが妥当と思われる。以下の検証に当たっては、この点を踏まえることとしたい。

実例を観察すれば直ちに気付くことであるが、追加型では例(28)から例(32)にあるように“是不是”が前方の陳述形式と形式的に完全に切り離さ

れ、聞き手に対する呼び掛けの語や“你说”“你看”のような常套的な語句を付加したものが頻出する。

- (28) 柳条儿 老虎跟我闹着玩呢！是不是，老虎？

王老虎 哼！ 老舍《王老虎》

- (29) 张老师 金四把看见的，是这小子作的！金四把，是不是？

老舍《国家至上》

- (30) 吕以美 我不能不走！只有走出来，我才能对社会有点用处，对父亲有点用处！您说是不是？

乔 妻 我明白！我明白！ 老舍《归去来兮》

- (31) 王明真 （满意了屋中的整洁）得！干干净净，简简单单，到底比往年您过生日那么乱讲排场，铺张浪费好！爸，您说是不是？

王立言 （慢慢转过身来）是！是这么简单朴素好！ 老舍《生日》

- (32) 孟小樵 你欠我的钱呢，我暂时不提。三元，你看是不是？

向三元 喳！ 老舍《方珍珠》

これらの語句に関して、刘月华 1986 は、「この場合の“你说”“你看”は、本来的な用法ではなく、話し手の判断に対する同意を聞き手に求めるための派生的な用法」であると述べている。菱沼透 2002 も同様の指摘をする。また邵敬敏 1990 は、これらを追加型における「発問補助語（助問词语）」と呼んでいる。以上の指摘を総括すると、これらの語句は、まさに聞き手に対する注意喚起を打ち出す作用を発揮するものであり、こと追加型において用いられた際、“是不是”と機能的に互助的な作用を生ずる、ということができる。

続いて注目すべき実例は、例 (33)、例 (34) のように、語気助詞“嘛”、“吧”を用いた節に“是不是”が後続しているものである。

- (33) “妳也不缺钱生活嘛，是不是？” 黄河《石之祭》

- (34) “从没有想到你还会说谎，而且说得那样熟练。看来是经常说谎吧，是不是？” 王海鸰《牵手》

このような文において、語気助詞“嘛”、“吧”はいずれも、話し手が是認

する命題内容を提示し、聞き手に同意を促すモダリティ成分であると考えられる。そこに更に“是不是”が後続しているということは、その“是不是”は命題内容に関与する成分ではなく、話し手の下した是認の判断に対して確認を求める表現形式であると考えなければならず、したがってそれは、専ら聞き手目当ての確認要求のモダリティ成分であると考えなければならない。¹¹⁾

更に実例を観察してゆくと、例(35)のように“是不是”が発話の冒頭に位置しながら、文成分型とは考えられない実例の存在が認められる。例(36)のように、文成分型に変換することができないからである。

(35) 张松柏看了忍不住，再次强调：“他是中共国安部特别行动组组长，魏翔。我看了他的人物志，挺有个性的一个人，很令人佩服。”

张松柏这段话的真意是——鹏老，只要是长相像您这号人物，都是挺有个性的、令人佩服的。

这种高帽子，谁会不喜欢戴呢？尹鹏闻言急停步，反过身看著张松柏，只见尹鹏憔悴的脸散了，疑惑非常。

“你说他叫什么名字？”

是不是，鹏老有兴趣了吧？张松柏暗自得意。 黄河《石之祭》

(36) * 是不是鹏老有兴趣了吧？

(37) 鹏老有兴趣了吧，是不是？

例(35)は、“张松柏”が“魏翔”という人物を熱心に紹介している場面である。“尹鹏”ははじめ真剣に耳を傾けてはいなかったのだが、“张松柏”の熱の入った説明に次第に興味を持ち、最終的に“你说他叫什么名字？”と“魏翔”に対する興味を示す問いを返すに至った。そこで“张松柏”は“是不是，鹏老有兴趣了吧？”、つまり我が意を得たりと心中得意になった、という次第である。この文は、当然例(36)のように文成分型には置き換えることができない。例(37)のような追加型は成立するわけであるが、例(35)の疑問形式は単にその“是不是”が移動した結果と捉えるのではなく、“是不是”自体の持つ話し手の判断の確認という作用がより強化されて、文頭にお

いてそれが発揮された結果と考えるべきであろう。話し手は予め心中で“鵬老对魏翔有兴趣”といった命題に対して判断を下しており、相手の反応を見てその判断が妥当であることを自認したのである。後方の“鵬老有兴趣了吧”という台詞は、その再確認の表明に過ぎない。

次の例(38)も例(35)と同様に説明できる例であるが、ここでは“是不是”が独立して発話の冒頭で用いられており、特に注目に値する。

(38) “好吧，你说说！”她搬过个凳子来，坐在火炉旁。

“你有多少钱？”他问。

“是不是？我就知道你要问这个嘛！” 老舍《骆驼祥子》

前節で規定した追加型の構文的意味に基づき、本節ではそれが反映されている言語事実を採り上げた。特に重要な点として、追加型の“是不是”は命題内容に直接関与しない聞き手目当てのモダリティ成分であり、命題からは切り離された形式として用いられ、更には発話レベルで独立的に用いられる場合さえ生じる、ということを確認しておきたい。

4. 文成分型と追加型の比較考察

4. 1 詰問調と婉曲な提案・依頼

以上第2章・第3章で、文成分型と追加型それぞれの構文的意味を規定し、両型の特徴を示す現象を検証した。本章では、両型の構文的意味の差異が反映される言語事実を採り上げ、順次考察してゆく。

最初に採り上げたいのは、文成分型の通常とは異なる二つの用法である。まず、丁力 1999 が指摘する通り、文成分型は例(39)のように語気の強い詰問調の問い掛けになることがある。¹²⁾

(39) “还嘴硬！说！你回台湾是不是想看他？”岳祥天醋劲大发，提起他的情敌，他就一肚子气，恨不得找情敌出来单挑。 沈苇《阳光骑士》

この用法は、文成分型における話し手の予測が肯定に強く傾斜することによって確信度が高まり、それに伴って聞き手に予測通りの返答をより強く要

求するために生じた結果と考えられる。しかし文成分型の実際の使用状況を鑑みると、例(39)のような詰問調の問い掛けは、実はあまり多用されるものとは言えないようだ。それより注目に値するのは、李子云 1994、陶炼 1998、刘月华等 2001 の各先行研究が指摘するように、文成分型に婉曲な提案や依頼の用法が存在することである。いずれの先行研究も作例を挙げるのみで、それらに対する分析は加えていないが、今回文成分型の実例を調査したところ、例(40)、例(41)のような提案の例、例(42)のような聞き手に対する依頼の例が、それぞれ複数検出された。

(40) 女副手不甘心：“我们是不是再找他本人谈一谈？”“可以，但无论你们谈的结果如何，我公司原则不变。必要时，我们将诉诸法律。”方向平说。 王海鸰《牵手》

(41) 黄莺不好意思地道：“金大哥，我知道我差劲，你用不着安慰我，我们是不是就下去？”

金蒲孤点头道：“下吧！刘素客一定等急了！”

司马紫烟《冷剑烈女 续》

(42) 陈斌问：吴主任需要我们帮忙的嘛？吴中杰笑道：别的不用，这车票你是不是帮我弄一张？冯小姐笑道：这您放心，您多会走？

谈歌《天下滔滔》

陶炼 1998 は、この用法の場合は“是的”、“不是”による返答は出来ず、命令文に対するのと同じ“好的”、“不行”によって返答しなければならないと述べる。確かに例(40)では返答に許可を表す“可以”を用いているし、例(41)、例(42)で“是(的)”などと応じるのはいかにも不自然である。これらの文が婉曲な提案・依頼を表している由である。

この場合の“是不是”も、上述の詰問調の場合と同様、あくまで話し手の疑問に対する肯定の傾きを示すマーカーであると考えられる。この場合、聞き手を行為者に含む命題内容に対して肯定の傾きを有しながら発問し、最終的な判断は聞き手に委ねている。聞き手はそれを察し、行為を遂行するのが妥当かどうか判断を下す。そこで結果として、語用論的に提案や依頼の働き

かけという効果が生じるということである。

一方追加型は、話し手が既に確信的な判断を持った上での発問であるから、自ずと語気が強くなり、聞き手にその判断の妥当性を強迫的に認めさせようとするケースがより生じやすくなる。典型的なのは例(43)のようなものであるが、例(44)のようにかなり極端な例もある。

(43) 珞琳接口：“你只要说出你心里的意思，我们也不要你出面，我们自会处理！她迫切的摇了摇新月的胳膊：“你就承认了吧！你是喜欢我哥的，是不是？是不是？” 琼瑶《新月格格》

(44) 他不断地问我“为什么你非得站在我左边跟我说话你想看我的笑话，你想让所有的人都知道我耳朵有毛病是不是？你说你说是不是是不是是不是！” 铁凝《午后悬崖》

また追加型では、文成分型に見られるような婉曲な提案や依頼は表しにくい。次の例(45)、例(46)のような文は話し手の判断が妥当であることを確認するための発話と捉えられるため、特定のコンテキストが無ければ不自然な発話である。

(45)？咱们再找他本人谈一谈，是不是？

(46)？这车票你帮我弄一张，是不是？

追加型が聞き手に行為を要請する発話として理解される場合もあるが、押し付けがましいニュアンスを伴う。徐盛桓 1999 は例(47)を挙げ、このような形式を命令的な語気を伴うものとし、「命令疑問文（祈使疑問句）」と命名している。¹³⁾

(47) 你能把音量收小一点，是不是？ (徐盛桓 1999)

だが徐盛桓 1999 のいう命令的な語気も、追加型の構文的意味から派生される言外の意味と考えられる。この文を例にとれば、“你能把音量收小一点”という命題を確言することで、聞き手が当該行為を遂行可能であることをあたかも既定の事実のように提示し、そのうえで聞き手に対して“是不是”とは認を促している。それは話し手の確定的な判断であるから、文成分型とは異なり聞き手はそこに判断を加える余地が無い。そこで聞き手は話し手の判

断に巻き込まれ、当該形式に押し付けがましい命令的な作用が生じるのである。

4. 2 追加型でのみ成立する形式

文成分型と追加型の成立状況を丹念に観察してみると、統語論上は制約が無いように見えながら、実際には追加型でのみ成立が容認されるケースが幾つか見いだされる。例えば第1章の問題提起として、話し手自身の素性や思考のあり方について述べた文は、追加型では成立するが、文成分型では成立しにくいことに言及した。ここで改めてこの言語事実を採り上げてみよう。以下の例(48)は戯曲から、例(49)はインタビュー記事から抽出したもので、いずれも聞き手に面しての対話であるが、両者ともに文成分型に置き換えると不自然になる。

(48) 黄子清 我黄子清不能慢待了客人，是不是，县长？

老舍《国家至上》

(49) 我有我的角度和想法，是不是？我，根本不想出名儿。

张辛欣、桑晔《北京人》

(50)？我黄子清是不是不能慢待了客人？

(51)？我是不是有我的角度和想法？

この事実は結局、文成分型と追加型の構文的意味の相違から説明すべきものである。例(50)、例(51)が不自然なのは、話し手自身の素性や思考のあり方は自分自身が聞き手よりも知悉していて然るべき事柄であるにもかかわらず、それについて疑いを表明し、聞き手に情報提供を求めているからである。対して追加型では、話し手が自分自身の情報を是認し、相手にその判断が妥当であることを改めて確認するのであって、何ら矛盾を生じない。文成分型で話し手自身の素性や思考のあり方を問題とする文が成立するのは、以下の例(52)のように話し手が純に自己に関する情報を欠き、疑いの心情を表明する場合か、例(53)のように当該命題が真であることを聞き手に対して問い掛けという形で改めて認識させる場合に限られる。

(52) 如霜心中道：“我这是怎么了？”她忽然道：“我是不是很丑？”

范书道：“不丑。”

如霜盯着他：“你为什么要骗我？我已是满脸伤疤，又怎会不丑？你怎么会喜欢一个满脸伤疤的女人？” 龙人《正邪天下》

(53) 王清臣 你们看，我是不是关心社会问题！ 老舍《一家代表》

文成分型と追加型の構文的意味の相違から説明できる言語事実は他にもある。以下の例(54)のように、話し手が極めて具体的な命題内容を確認的に認めたうえで発話を遂行したものは、やはり追加型でしか成立せず、文成分型では容認されない。

(54) 大 妈 我可不去开会！人家说什么，我老听不懂。

四 嫂 也没什么难懂的。反正说的都离不开修沟，修沟反正是好事，好事反正就得拍巴掌，拍巴掌反正不会有错儿，是不是？老太太！ 老舍《龙须沟》

(55) *也没什么难懂的。是不是反正说的都离不开修沟，修沟反正是好事，好事反正就得拍巴掌，拍巴掌反正不会有错儿？

具体的に例(54)を見ると、“大妈”が“人家说什么，我老听不懂。”と言うのに対し、“四嫂”は“也没什么难懂的。”とそれに反論し、自らの主張を詳細に展開してから“是不是？老太太！”とその妥当性を先方に確認している。この場合、追加型の話し手“四嫂”は自らの思考内容を極めて具体的かつ明確に形成しており、それに対して疑いを差し挟む余地が無い。例(55)のように文成分型で述べることはできないのは、まさにそのためである。

また追加型では、いわゆる反語形式に“是不是”が後続する場合がある。この際、以下の例(56)、例(58)に対して、それぞれを文成分型に置き換えた例(57)、例(59)は成立しない。

(56) 谁没三亲六故呢？是不是？ 张辛欣、桑晔《北京人》

(57) *是不是谁没三亲六故呢？

(58) 辛永年 没有困难，怎能见出咱们克服困难的本领呢？是不是？

老舍《桃李春风》

(59) *没有困难, 是不是怎能见出咱们克服困难的本领呢?

この成立の可否についても、上掲例(54)、例(55)の場合と同様、文成分型と追加型との構文的意味の相違から説明することができる。即ち、この場合の追加型において、話し手は確信的な内容の発話を反語という形式によって展開した上で“是不是”を後続しているのであって、命題内容に対して疑いを差し挟む余地は残っていない、ということである。¹⁴⁾

4. 3 “呢”の付加と蓋然性を表す副詞の生起

本節では、前節までとは異なった角度から、文成分型と追加型の差異を示す言語事実を提示したい。特に興味深いのは、文成分型と追加型とで語気助詞“呢”の付加の容認度に差が認められることである。その裏付けとして老舍の戯曲42作品を対象に統計を取った結果¹⁵⁾、管見によれば文成分型では例(60)のように“呢”が付加された例が113例中43例にのぼったのに対し、追加型で“呢”が付加されていたのは、169例中以下の例(61)から例(63)の3例のみであった。¹⁶⁾つまり、文成分型では文末に折々“呢”が付加されるのに対し、追加型ではそれが非常にまれにくいわけである。

(60) 佟秘书 呕!我问你,秦大夫是不是看不起我呢?是不是有人鼓励他,跟我作对呢? 老舍《面子问题》

(61) 洗局长 你并不热心帮助我办那件事,你一味的敷衍我, 是不是呢?
徐芳蜜 假若你那么看,也好;敷衍就是我的基本本事之一。

老舍《残雾》

(62) 凌颂英 这样,咱们就团结了别人,别人也会帮助咱们,这就体现了集体操作的精神, 是不是呢?

刘海清 一点不错,支书! 老舍《青年突击队》

(63) 岳春江 她作护士长,大家都服气,医院就得到好处;你作护士长,大家未必都服气,医院就吃了亏!你说是不是呢?李芳!

李 芳 我说不过你,冯太太! 老舍《人同此心》

この事実を説明するにあたって、ここでは木村英樹・森山卓郎1997の“呢”

の性質に関する指摘を採り上げたい。同論文によれば、「もとより〈思い惑い〉や〈疑念〉の表明を意味する *ne* は、言うまでもなく、話し手自身が『はて？』と、思い惑ったり疑いを抱いたりした事態についてこそ用いられる」のだという。追加型に“呢”が付加されにくいという事実は、それが話し手の判断に対して聞き手の同意を促す形式であって、実質的に話し手の疑念を表明するものではない、ということを裏付けるものに他ならない。一方文成分型では、話し手は肯定に傾きを持ちながらも、なお命題内容に対して疑いを抱き、真偽判断を保留している。そこで一般の反復疑問文と同じように、抵抗無く“呢”を付加することができるのである。

文成分型において話し手が命題内容に対する真偽判断を保留していることは、いわゆる「蓋然性」を表す副詞が文成分型には生起することができない、という事実にも如実に反映されている。この点については、邵敬敏・朱彦 2002 に指摘が見られる。同論文によれば、文末語気助詞“吧”を用いた疑問文（“吧”当否疑問文）では“大概”“也许”といった推量を表す副詞が共起できるのに対し、文成分型ではその共起が成立しない、ということである。実際、次の例（64）の疑問形式は例（65）、例（66）のように文成分型に置き換えることができない。

（64）方达生 （想法躲开她的注意）你看，你大概是没有关好窗户吧？

曹禺《日出》

（65）*是不是你大概是没有关好窗户？

（66）*你大概是不是没有关好窗户？

邵敬敏・朱彦 2002 はこの事実の原因を、“吧”当否疑問文と“是不是 VP”疑問文の肯定性の差異にあるとする。前者は肯定性が 75 ～ 100 % であるのに対し、後者はそれより低い 50 ～ 75 % であるために、上記のような副詞が生起しないのだ、というのである。本論では邵・朱氏のこの事実の説明に、命題の対立項の選択形式という概念を援用したい。森山卓郎 2000 は、日本語で「*たぶん、彼が学校に来たか。」のような文が成立しない原因を、推量

の表現と疑問形式の性質の対立から説明している。即ち、対立項を並立して提示する形式である疑問形式の内部で、推量の表現によってその対立項の双方の成立可能性を示唆するのは、同一形式内で背反する意味を構成することになり、論理的に不適切な文になる、ということである。本論では、この説明が蓋然性の副詞が文成分型において生起できないという事実にも適用できると考える。この事実はまた、文成分型は話し手が肯定に傾きを持つとはいえず、あくまで疑問文の域を出るものではない、ということをも示している。

一方追加型は、これまで見てきたように、命題が真であるという話し手の判断の妥当性を問題とする形式であって、命題の真偽を対立項として提示する疑問形式ではない。したがって以下の例(67)に見られるように、“大概”のような蓋然性を表す副詞を用いた陳述形式であっても、追加型を形成することが可能なのである。

(67) 陈白露 你大概有点疑心我很放荡, 是不是? 曹禺《日出》

総じて、追加型は文成分型と同じ「疑問形式」とは言いながら、実際上は疑問の作用域が異なっており、したがって互いに異なるレベルに属するものと言うことができる。

5 おわりに

以上本論では、確認性疑問形式の構文的意味について、文成分型は「命題が真であることの確認」、追加型は「命題が真であるという話し手の判断そのものが妥当であることの確認」と規定されることを述べた。言い換えれば、文成分型では“是不是”の作用域が命題そのものの真偽に掛かっているのに対し、追加型では“是不是”の作用域が命題が真であるという話し手の判断に掛かっているのである。両型の差異が単なる“是不是”の位置の相違でないことは、もはや言を待たない。命題の真偽を問題とする文成分型の発話と、命題の真偽を判断したうえで、その判断の是非を問題とする追加型の発話とでは、そもそも発話概念のレベルが異なるのである。殊に第4章で明らか

にした、両型で成立度に差の出る言語事実——単純な統語的差異としては説明できない種々の言語事実の存在は、まさにそのレベルの差異を反映したものに他ならない。

文成分型と追加型とに見られるような発話概念のレベルの差異というのは、決して確認性疑問形式に限って見出されるものではない。一例として、Biq1991の指摘を紹介しよう。¹⁷⁾ Biq1991は、次の例(68)に見られるような“你”の用法を、命題的用法(propositional use)に対する、メタ言語的用法(metalinguistic use)であると指摘している。

(68) 你比如说, 中国的过去就有这个问题; …… (Biq1991)

つまりこのような“你”は、指示代名詞として命題内部の具体的な対象を指示するものではなく、スピーチアクトのレベルで、専ら聞き手に対する注意喚起のために為された発語である、ということである。この指摘は、文成分型における命題目当てのモダリティ成分である“是不是”に対して、追加型における“是不是”が命題内容に直接関与しない専ら聞き手目当てのモダリティ成分であり、更にそれが場合によっては発話レベルで独立的に用いられるに至る、という一連の対比性が、中国語の現象として一般性を持つことを示唆するものと言ってよい。

本論は、文成分型と追加型の構文的意味の規定と、両形式の差異の考察とに紙面の大半を尽くした。だが文成分型と追加型との一連の対比性は、上掲Biq1991をはじめとして、中国語の命題とモダリティ、スピーチアクト等の諸問題における様々な現象と関連性・平行性を持ち得るものと思われる。この点についての論考は、今後の継続課題としたい。

注

- 1) 「確認性疑問形式」というのは、本論独自の用語である。中国語では“‘是不是’ 问句”などと呼ばれるが、日本語においては定着した呼称は無い。以下の「文成分型」、「追加型」も本論独自の用語であるが、こちらは中国語、日本語ともに特定の呼称が見あたらない。

- 2) なお、文成分型に特有の特徴として、いわゆる焦点移動が挙げられる。文成分型においては、“是不是”の直後の成分に疑問の焦点を当てる場合がある。以下の例では、“是不是”の位置の違いによって、その焦点（波線部）が変動しうるわけである。

是不是你今天有毛病？

你是不是今天有毛病？

你今天是不是有毛病？

この点に関しては、本論では考察しないこととする。

- 3) なお、邵敬敏・朱彦 2002 は確認性疑問形式の通時的考察を行っているが、本論ではその問題については議論しない。
- 4) 望月八十吉 1994 は、この事実から「文末の“是不是”は辞的要素であって、間接化できないことが分かる」と述べる。ここでいう「辞的要素」とは、即ちモダリティ成分のことと考えられる。文成分型と追加型それぞれの“是不是”の、モダリティ成分としての性質については、後述する。
- 5) 引用は刘月华等 2001 による。同書は、刘月华等 1983 の増訂本であるが、上掲の記述に変更は無い。なお、刘月华等 2001 は文成分型と追加型とを区別していないが、本論では文成分型に関する記述として妥当性を考査している。
- 6) 邵敬敏・朱彦 2002 は“是不是 VP”が肯定性を有することを強調し、その裏付けとして約 92 万字のコーパス調査において、“是不是 VP”の実に 92 パーセントが肯定に傾きを持つという結果が得られたことを挙げている。この結果は本論の主張に合致するものであるが、しかし同論文は肯定性の有無の判定に明確な基準を設定しておらず、恣意的なきらいがあるため、本論はこれを援用しない。また文成分型と追加型とを同一視している点も、本論とは認識を異にしている。
- 7) ただし、例 (23) に対して“你究竟是不是要上来？”のような表現は容認され得ると言うインフォーマントもあり、文成分型における“究竟是不是”のような表現はいかなる場合にも不成立とまでは言えないようである。
- 8) 現代中国語の命題構造とモダリティ構造については、殊に于康 1998a・b、于康 1999、于康 2000 において詳細な検討がなされているが、本論では于氏の議論の妥当性については深く考証しないこととする。
- 9) ただし于康 2000 はこの説明をするにあたり、繫辞“是”による反復疑問文と確認性疑問形式とを混同して例文を提示している。本論はその点に与せず、改めて于氏の主張に符合する例文を提示した。
- 10) この発話における“你说”の役割については、次節参照。
- 11) これらの文において、語気助詞が無くても追加型は問題無く成立する。ただしそ

の場合にも、“是不是”が聞き手目当てのモダリティ成分であることに変わりはない、という点に注意したい。換言すれば、語気助詞が用いられた節に後続するから“是不是”が聞き手目当てのモダリティ成分になるのではない、ということである。

- 12) 丁力 1999 はこの用法の存在を踏まえ、文成分型・確認性疑問形式を「一般的発問（一般提問）」と「威圧的発問（威逼提問）」とに分類し、「威圧的な発問」の文成分型は“～吗？”の形の当否疑問文に変換しにくいと指摘し、その原因は待考としている。だが本論では、文成分型を「一般的発問」と「威圧的発問」とは語気の強弱によるものに過ぎず、また当否疑問文での成立状況は確認性疑問形式のそれとは別問題と考える。したがって、その問題については議論しないこととする。
- 13) 徐盛桓 1999 は他に「命令疑問文」に属する文として、“你能把音量收小一点吗？”、“你能不能把音量收小一点？”といった例を挙げている。これらの文における聞き手への行為要請の作用も語用論的な結果によるものと考えられるが、聞き手に行為遂行の当否判断を委ねているという点で、例（47）とは区別すべきものである。
- 14) 邵敬敏 1990 は例（58）を挙げて、これを反語文に後続する「付加疑問文（附加問）」とする。一方邵敬敏 1994 は同じ例を挙げながら、これは付加疑問文ではなく、疑問文に後続する「問い詰め（追問）」であると述べ、前論文と解釈が違っている。本論では、この場合の用法は他の場合と変わるものではなく、「問い詰め」なる用法を別個に採り上げる必要は無いと考える。
- 15) 統計に当たっては、《老舍剧作全集》全4巻収録の37作品、および《老舍全集》第9巻～第12巻所収の戯曲のうち、上記と重複しない5作品を対象とした。
- 16) 繫辞“是”の反復疑問文は文成分型とは異なるものとの判断から、統計の対象外としている。また、次のように文が言い切られていないもの等は除外した。
张孝英（大惊）怎么，三叔，是不是—— 老舍《国家至上》
- 17) なお、木村英樹 2002 に Biq1991 についての紹介がある。

参考文献

- 丁 力 1999 〈从问句系统看“是不是”问句〉《中国语文》第6期
- 李子云 1994 《汉语语法规则》 安徽教育出版社
- 刘月华 1986 〈对话中“说”“想”“看”的一种特殊用法〉《中国语文》第3期
- 刘月华・潘文娉・故粹 1983 《实用现代汉语语法》 外语教学与研究出版社
- 2001 《实用现代汉语语法（增订本）》 商务印书馆
- 吕叔湘 1979 〈汉语语法分析问题〉《汉语语法论文集（增订本）》 商务印书馆，1999

- 邵敬敏 1990 〈“X不X”附加问研究〉《现代汉语疑问句研究》华东师范大学出版, 1996
—— 1994 〈现代汉语正反问研究〉《现代汉语疑问句研究》华东师范大学出版, 1996
邵敬敏·朱彦 2002 〈“是不是 VP”问句的肯定性倾向及其类型学意义〉《世界汉语教学》第3期
- 陶 炼 1998 〈“是不是”问句说略〉《中国语文》第1期
- 徐盛桓 1999 〈疑问句探询功能的迁移〉《中国语文》第1期
- 于 康 1998a 〈关于现代汉语命题结构〉范畴语法研究会编《范畴语法论集》No. 1
—— 1998b 〈关于现代汉语话题者心态表现结构〉范畴语法研究会编《范畴语法论集》No. 1
- Yung-O Biq 1991 The multiple uses of the second person singular pronoun *ni* in conversational Mandarin *Journal of Pragmatics* Vol.16
- 岩本真理 1993 「周遍性主語とモダリティ表現」『中国語研究』第35号 白帝社
- 于 康 1999 「現代中国語の命題構造の階層性」関西学院大学言語教育研究センター紀要委員会編『言語と文化』第2号
—— 2000 「現代中国語のモダリティ構造の階層性」関西学院大学言語教育研究センター紀要委員会編『言語と文化』第3号
- 大滝幸子 1992 「中国語複句文の接続関係を決定づける諸要因 ——順接、逆接の分析を通して見いだせること——」文化言語学編集委員会編『文化言語学——その提言と建設——』三省堂
- 木村英樹·森山卓郎 1997 「聞き手情報配慮と文末形式 ——日中両語を対照して——」大河内康憲編『日本語と中国語の対照研究論文集』くろしお出版
- 木村英樹 2002 「アメリカにおける中国語文法研究の動向」『中国語学』第249号
- 興水 優 2000 「反復疑問文をめぐる」『中国語学』第247号
- 菱沼 透 2002 「挿入成分としての“我说、你说”“我看、你看”」創価大学文学部外国語学科中国語専攻編『創大中国論集』第5号
- 望月八十吉 1994 「中国語における直接引用の間接化」『現代中国語の諸問題』好文出版
- 森山卓郎 2000 「認識のモダリティとその周辺」仁田義雄、益岡隆志編『日本語の文法3 モダリティ』岩波書店

引用例文出典

- 胡絮青、王行之编《老舍剧作全集》第1卷～第4卷 中国戏剧出版社, 1985
《老舍全集》第3卷、第9卷～第12卷 人民文学出版社, 1999
《曹禺文集》第1卷 中国戏剧出版社, 1988

王海鸰《牵手》 人民文学出版社, 1994

张辛欣、桑晔《北京人 一百个普通人的自述》上海文艺出版社, 1986

黄河《石之祭》龙行文化图书有限公司, 1999

上掲以外で出典を明記した用例は、先行研究掲載の作例を除き、全てインターネットリソース《亦凡公益图书馆》(<http://www.shuku.net>) からアクセスした小説テキストによる実例である。

付記

本稿は、日本中国語学会関東支部例会(2002年9月)および日本中国語学会第52回全国大会(2002年10月)における口頭発表原稿に、加筆修正を施したものです。口頭発表の際に貴重な御意見を下さいました先生方に、この場を借りて御礼申し上げます。また、木村英樹先生、井上優先生には、殊に懇切な御指導・御助言を頂きました。ここに記して心より感謝申し上げる次第です。